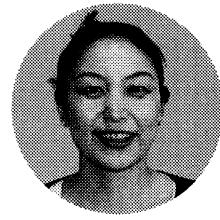


異文化と 心通わせ

村田 佳子



先日、3年前に渡米し、ここでボストンで國滞在をいたしました。今年も約一年でボストンで過ごすことに10日間だけ帰国しました。この一時帰国をしました。この連載の21回目（2006年12月5日付）にワシントンD.C.の研究所で働く日本人の話、特にランチパーティードのコミュニティーションについて触りましたが、それは彼女のことでした。昨年に引き続き現在もワシントンD.C.のカーネギー研究所で博士研究員をしていました。そこで博士研究員として書きたかったと思います。

~海外で挑戦する女性科学者~

した。教室にはアーヴィング・シルバーマンがいた。彼女はおつりけ地味で、いつも静かに座っていた。しかし、彼女の頭脳は驚くほど優れていた。彼女は、数学や物理などの専門知識を駆使して、複雑な問題を解決する能力を持っていた。また、彼女は、常に新しいアイデアを追求し、研究の幅を広げようとした。しかし、彼女の才能が認められず、彼女は、研究費を失った。それでも、彼女は、諦めずに、他の研究者たちと協力して、新しい研究を進めていった。彼女の努力は、やがて認められ、彼女は、多くの賞を受けることになった。しかし、彼女は、それ以上、研究を続けることを諦めなかった。彼女は、自分の研究を、世界中の人に紹介するため、国際会議に参加したり、書籍を執筆したり、講演を行ったりした。彼女の研究は、世界中の研究者たちに大きな影響を与えた。彼女は、女性として、また、科学者として、大きな功績を残した。

とおひひつした口調で、
でも單純明快です。そん
な彼女の日常とはほんな
様子なのでしょう。
科学者の仕事とは「白
衣を来て、たつたひとり
で研究室にこもり、黙々
と実験する」そんなイメ
ージが強いかもしませ
ん。確かに彼女も朝から
隕石の分析を黙々と行う
日もあるといいますが、
実際、研究という仕事に
はいろんな場面があるよ
うです。今、勤務してい
る宇野 調味があつた
ときの記憶でしたら、
みの苦しみも相当味わ
うとしているながらも樂しそ
うに話すのです。今もや
っぱり理科が好きという
ことが分かります。

近い将来、日本の大学
や研究所に就職し研究・
教育に携わるのが今の彼
女の目標です。また彼女
はまだ中高生や大好きなこ
とを仕事にしたい子供た
ちに彼女の話を聞かせた

博士研究員とは、博士号を取った後に期限付きで研究員として働く人の、プロップのダンス教室で彼女と出会ったのは、以前、つくば市内のヒッ

って?
内産業技術
合研究所から東
京都内の大学へ
研究開拓を多

「他の研究者も集めて、科学のおもしろさを伝える」と、吉田は意図した。吉田の意図通り、吉田の言葉が多くの人々の心に響いた。吉田の言葉は、多くの人々の心に響いた。

卷之三

仕事でからも連絡を取り合っていま
した。

を行い、論文を書き、学術誌や学会で発表する。あるときはカリフォルニアの医療系大学で講義を担当したり、日本では東京大学や京都大学で講義を担当したりしました。彼女の「理科が好き」である気持ちが今このな

A black and white portrait of a woman with dark hair, smiling. She is wearing a dark, textured top. The background is slightly blurred.

**先者の
代からの目標だ
つた在外研修の**

アへ出張して実験をして、がつたよつ」子供たちいたかと思えば、次の週のどの瞬間が未来の「楽はフロリダで学会発表を、しい！」につながるかは

1000

研究
夢がない、ア
リゾナ州立大学

組む姿はしゃべっていることに挑戦している彼女はやつぱりすてきで、心

05年7月から彼女の専門分野のエキスペートがいる今のワシントンD.C.

つていろいろきの彼女のイメージに近いです。渡米して3年目、異文を終えて私も背筋が伸びました。そして久々の再会で、から応援したいたいと思います。

THE BIRDS

りました。彼女の今の研究テーマは「隕石中の有機物を分析し原始太陽系

流、そして優れた人たち
の中で厳しくも、実りある毎日で、今の自分に必
持ちになりました。
(吉岡市出身) ハーチン

要は挑戦の場に詰ります。
「えんなんとあらわし」と
進化を解明するところ